

2025年大阪・関西万博 教育プログラム概要説明



(公社) 2025年日本国際博覧会協会

開催概要

大阪・関西万博は、「いのち」をテーマに掲げる万博として、世界が一つの「場」に集う機会となります。本万博を契機として世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや創造を促進し、世界的な危機を乗り越え、一人一人のいのちを守り、いのちの在り方、生き方を見つめ直すことで、未来への希望を世界に示す万博となることを目指します。

名称

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）

テーマ

いのち輝く未来社会のデザイン
Designing Future Society for Our Lives

サブテーマ

Saving Lives（いのちを救う）
Empowering Lives（いのちに力を与える）
Connecting Lives（いのちをつなぐ）

コンセプト

People's Living Lab（未来社会の実験場）

開催期間

2025年4月13日～10月13日（184日間）

開催場所

大阪 夢洲（ゆめしま）



会場デザイン

海と空が感じられる会場

四方を海に囲まれたロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」が印象強く感じられる会場



■目的

次世代を担う子どもたちが総合的な学習の時間約10時間を使って「万博」や「SDGs」について学び、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に向けたアイデアを考え発信するとともに、**2025年には実際に万博会場へ行きたくなるよう興味関心を高めてもらう。**

■対象（ターゲット）

小学校5・6年生、中学校全学年

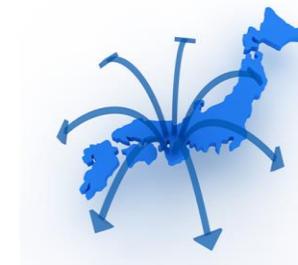
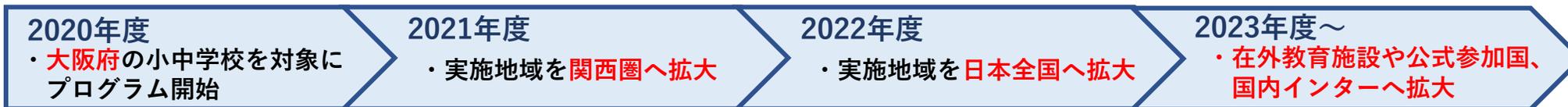
■内容

- ・学校の教員が専用教材を使って授業を実施。
- ・万博について、過去博からのテーマの移り変わりや大阪・関西万博のテーマを多くの写真や映像を用いて学んでもらう。
- ・企業のSDGsの取り組み内容を学んだり、「いのち輝く」とはどういうことか自らの体験など身近なところから考える。
- ・自分たちの考えたアイデアをポスターやプレゼンなどの成果物としてまとめ上げ、広く発信していく。



教材イメージ

■これまでの経緯と今後のスケジュール（予定）



■海外展開について（2023年度～）

<海外在住の日本人児童・生徒向け>

- ・在外教育施設を対象に、10時間を想定した現在の教材に加え、万博とSDGsの学習が**3時間程度**で実施できる内容に再編した「簡易版教材」も提供し、授業を実施してもらう。
- ・在外教育施設への理解及び子どもたちへの周知のフォローアップについて、**海外子女教育振興財団の協力を得て実施**する。
- ・在外教育施設関係者に対する教育プログラムの周知・ご紹介をエグゼクティブアドバイザーの協力を得て実施する。



公式キャラクター
ミヤクミヤク
(MYAKU-MYAKU)

■（参考）実績と成果

○これまでの実績

年度	参加校数	中学校	小学校
2020	14校	5校	9校
2021	50校	16校	34校
2022	118校 (12月末現在)	57校	61校

○質問に対して、「できる」と回答した割合（2021年度）

質問	小学生		中学生	
	事前	⇒ 事後	事前	⇒ 事後
大阪・関西万博はどのような万博をめざしているのか説明できる	25.4%	51.7%	7.1%	47.8%
SDGsに対して、自分なりの考えを説明できる	61.2%	88.3%	38.4%	74.5%

1. 目的

教育PGで学んだ内容や、考えたアイデアなどを、海外現地学校との交流や現地イベント等で発信することで、こども達の国際交流や、日本文化の発信を促すとともに、海外における万博自体の周知も併せて行う。

2. 条件

1. 在外教育施設において教育PGを履修し、発信のための成果（ポスターやプレゼン資料）を作成していること
2. 現地校や、現地のイベントでの発信など外国人との交流があること
※その他、ホームパーティ等、私的・個人的な交流の場でも可能

3. 呼び方の候補

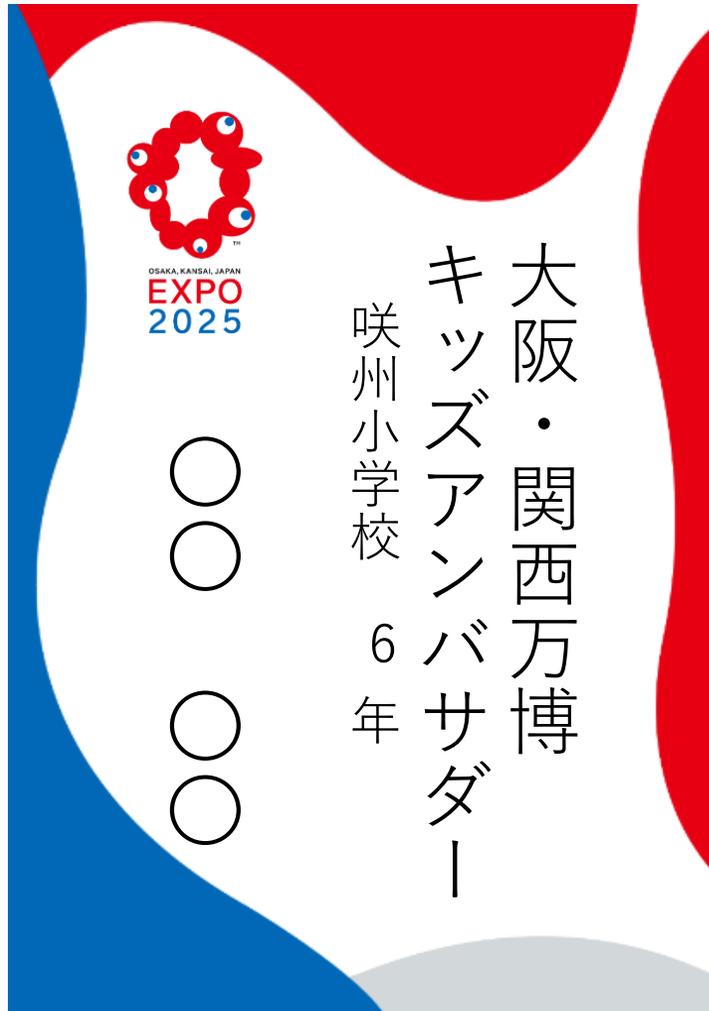
- 大阪・関西万博キッズアンバサダー
※外国人に万博を紹介するため表記を英語としている

4. 特典

- 内容
名刺、オンライン会議で使用する背景のデザインデータの提供（ロゴ、キャラ、VI等）
- 提供方法
教員が教材をDLできるページにデザインデータを掲載し、教員からこども達へデザインを提供（次ページ参照）

5. 参考（デザインイメージ（仮））

名刺イメージ



背景イメージ

